



貫井の風



令和6年11月号
令和6年11月8日
校長 佐藤 明子

<https://cms.nerima-tky.ed.jp/weblog/index-i.php?id=212>



道徳授業地区公開講座を迎えるにあたり ～共生社会を創る一人としての行動を考える～

校長 佐藤 明子

2学期になっても夏のような気温が長く続きましたが、ようやく校庭の木々も紅葉し、静かで落ち着いた秋の空気が感じられるようになりました。気温の低下とともに17時頃になると、薄暗い風景になります。深秋は心を耕し、身体を鍛えるよい時季です。じっくりと学習に運動に向き合い、力を蓄えていく時間にしてほしいと願っています。

先日、ユニバーサルデザイン【=年齢や能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人が使いやすいように、製品や建物・環境をデザインするという考え方】の研修会に参加する機会があり、日本理化学工業株式会社の取組に出会いました。同社は、日本一のシェアを誇るチョーク会社で、偶然にも本校も長年、同社の〈ダストレスチョーク〉を使っています。この〈ダストレスチョーク〉については、以前から、書く側にとっては黒板に滑らかにフィットして書きやすく、見る側にとっては発色が鮮やかで、線や文字が映えて見やすい素晴らしいチョークという印象をもっていました。

同社がユニバーサルデザインの取組として紹介された理由は、製品としてのチョークの秀逸性と、研修会のはじめは思っていたのですが、それだけではないことを学びました。同社の従業員7割が知的障害の人たちで構成されていること、そして従業員である彼らが「働くことは、幸せです。」という幸福度をもって就労していることに着目していました。

同社が知的障害者を雇用するきっかけは、1960年、前会長であった故大山泰弘氏が、近隣の特別支援学校より卒業生2名の採用を依頼されたことでした。当時の社会は、障害者雇用の理解は厳しく、様々な声や、今や会社の仕事の主軸になったものの、現在の彼らの仕事ぶりに至るまでの苦悩は多岐にわたりました。その様子は、『虹色チョーク 働く幸せを実現した町工場の軌跡<小松成美 著>』にも、描かれており、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

彼らの仕事は巧みな職人技です。チョーク一本一本の製造・検品・梱包等を、丁寧に手作業で仕上げて行きます。同社は重度の知的障害の従業員も就労していますが、全員が製造ラインに入り一人で作業ができるよう、話し合い、不具合を修正しながら、個人の技術にしていくとのことでした。

故大山氏は、障害者雇用の先駆者として歩まれましたが、社会と従業員との思いの差に悩んだこともあったと、先の著書にも記されています。その時は、右記の人間の幸せを追究することを思い、貫いてきたそうです。私は、この文章を読み、障害がある、ないにかかわらず、すべての人間の営みに通じるものと感じました。そして特に、子供の自己有用感、自己肯定感を高めていくことを担う大人には、「人の役に立つこと」「人に必要とされること」を意識して子供に接し、育んでいく必要があるとも思いました。日本理化学工業の取組を知る中で改めて、人の幸福を主眼にした行動の大切さを実感しました。

明日、9日(土)の学校公開日では、道徳授業地区公開講座を開催します。2校時に、「障害者理解」や「ユニバーサルデザイン」を共通テーマに、全学級で道徳の授業に取り組みます。また3校時は、特別支援教育に造詣の深い講師を招聘して「共生社会を創り担う皆さんとともに」を主題に講演していただきます。この機会を通じて、生徒たちには、共生社会について深く考え、その社会を創る一員として行動する大切さを学んでほしいと願っています。そして、ユニバーサルデザインを意識した教育を整えていくことは、多様で複雑化した社会に生きるすべての子供が学びやすい環境づくりにつながるものであり、引き続き、一人一人の子供が幸福感を得ることができ学校生活とはどのようなことなのかを、教職員と生徒たちと一緒に探り、その時に最善の方策を考え、実践する日々を邁進していく所存です。

明日の学校公開日、道徳授業地区公開講座へのご来校をお待ちしております。

人間の究極の幸せは、
1つは、愛されること
2つは、褒められること
3つは、人の役に立つこと
4つは、人に必要とされること
福祉施設で大事に面倒を見てもらうことが幸せなのではなく、働いて役に立つこそが人間を幸せにするのです。

この巻頭言の文字は、視覚に優しい『UDデジタル教科書体NK-R』を使用しています。